

来週の市場とレート予想

	5/22 (月)	5/23 (火)	5/24 (水)	5/25 (木)	5/26 (金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 600	+ 1,000	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 24,900	+ 3,000	+ 2,000	△ 5,000	+ 14,000
資金需給	△ 24,300	+ 4,000	+ 2,000	不 6,000	余 13,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・1Y) 国債発行(20年)				交付税特会借入・償還 地方貸実行
オペ期日	共通担保(全店) △1,700 CP等買入 △1,100 国債補完供給 + 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800 CP等買入 + 2,500	国債買入 + 3,700 短国買入 + 10,000			
(日本)	貿易統計(4月)	営業毎旬報告 (日銀・5月20日現在) 全産業活動指数(3月) 保有する国債の銘柄別残高(日銀) 国庫短期証券の 銘柄別買入額(日銀)	黒田日銀総裁、挨拶 日銀主催「金融政策：教訓と課題」 バーナキ前FRB議長、講演 (同コンファランス)	対外対内証券売買契約(週間) 日銀・桜井新議員、講演	消費者物価指数(CPI全国4月、 東京都区部5月) 企業向けサービス 価格指数(4月) 5月27日、黒田日銀総裁、講演
(海外)	米 フィアデルフィア連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 プレイナードFRB理事、講演 欧 ユーロ圏財務相会合	米 新築住宅販売件数(4月) 米 フィアデルフィア連銀総裁、講演 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 欧 EU財務相理事会 欧 ユーロ圏PMI (5月速報) 中 ミシガコ連銀総裁、講演	米 中古住宅販売件数(4月) 米 FOMC議事録 (5月2、3日両日分) 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 加 ダラス連銀総裁、講演 欧 ドラギECB総裁、講演	米 新規失業保険申請件数 (20日終了週)	米 GDP(1-3月、改定値) 米 耐久財受注(4月) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(5月確定値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、国庫短期証券・国債発行等の要因で、前週末比3兆9,000億円減少の347兆5,900億円から始まり、短国・国債買入オペを主因に17日には350兆5,000億円まで増加した。その後は5年債発行を主因に減少し、週末は349兆2,300億円となった。
無担保コールO/N物は、週初となる15日(積み最終日)、残高調整の資金調達需要が高まったことで地合が強含んだ。同加重平均金利は△0.033%(先週末比+0.004%)と、3月10日以来約2か月ぶりの高水準となった。積み初日となる翌16日以降は、調達意欲が後退し、同金利は△0.05%前後で推移した。
ターム物では1~3W物で△0.05%~△0.02%の出合いが見られた。

18日に発表された1-3月期のGDPは年率2.2%の増加。2006年以来11年ぶりの5期連続プラス成長となった。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.100 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約4,200億円で、週間償還額の約3,400億円(金融機関・ABCP除く)を上回る結果となった。20日絡みの発行で償還対比増加となったが、週間を通じてはやや閑散な商状であった。新発物の発行レートについては、投資家の旺盛な運用ニーズは変わらず、0.001%割れと低位横這いでの出合いであった。
来週の発行市場は、償還額の約4,200億円に対し、月末日スタート案件の前倒し等から、発行増加が見込まれる。26日に、CP等買入オペ(2,500億円程度)がオファーされる予定。
現先レートは-0.1%~0%程度の出合いで、横這い圏内での動きを予想する。

<TDB>

18日に国庫短期証券3M第684回債の入札が行われ、最高落札レートは△0.1243%(前回債△0.1243%)、平均落札レートは△0.1287%(同△0.1327%)と前回債とほぼ同水準。週末のセカンダリー市場では△0.133%近辺の推移であった。6Mは出合いが見られず、1Yは0.18%で少額出合いが見られた。来週は25日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.09%近辺から始まり、以降も同水準で推移した。短国の発行が重なった22日受渡しではレートが上昇、S/Nで△0.07%台、T/Nでは△0.06%近辺の出合いも見られた。週末には国庫短期証券・国債買入オペが合計1兆3700億円オファーされ、△0.075%~△0.08%に低下し越週した。
SC取引では10年340番台のbidが多く、341回債で△0.20%近辺、343回債は△0.40%近辺で多く取引された。その他2年374・375回債、5年126・127・129・130回債、10年334・336・338・345回債、20年160回債、30年52・53・54回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。